

まち協予備費の現状、今後の取り扱い（案）

令和8年9月5日

志津南学区まちづくり協議会
会長 四方道治

現状（令和8年4月現在）

予備費（繰越金）総額 22,497,053

単位：円

内訳

一般会計余剰金
9,776,455

指定管理料余剰金
12,720,598

今後の取り扱い（使途の明確化）

一般会計余剰金 ※

- ①まちづくり基金として
（防災、安心、安全、環境等
有事の際或いは、平時における
臨時出費への対応）
- ②各町内への補助基金として

※①②の比率については要検討

指定管理料余剰金

- ③施設管理基金として *
- ア 将来のまちづくりセンター建て替え
時の施設管理出費への対応
- イ 建て替え迄の
必要備品購入への対応

* アイの比率については要検討

まち協役員への報酬制度新設の提案

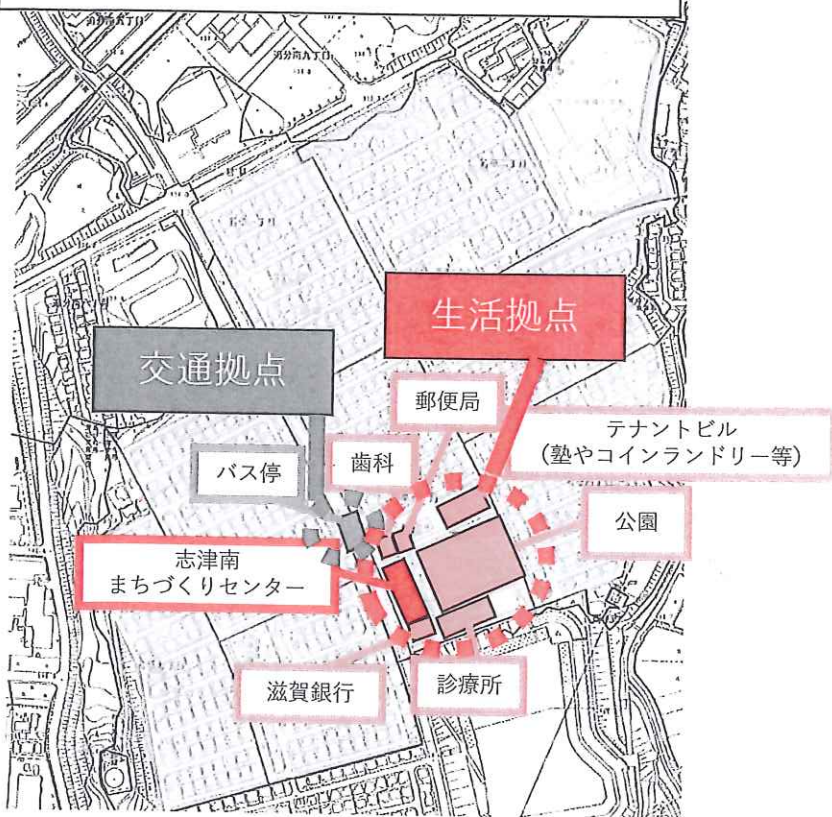
まち協役員の負担に対する謝礼としての報酬制度を新設したい
担い手確保の一策としてもやる価値があると考えられる

対象者、報酬金額、原資の考え方 について検討を進め、
予備費の取り扱いと共に令和8年11月の第3回理事会にて
具体内容を提案し、承認を得て、定時総会で付議の上、
令和9年度の実施を目指す

グリーンスローモビリティの実証実験について

若草地区の特徴

- ・人口：2,098人（令和8年4月30日時点）
- ・**高齢化率：51%**
- ・志津南まちづくりセンター周辺は医療機関や銀行、公園等が集積し**生活拠点**となっている。
- ・志津南まちづくりセンター近隣に「若草中央通り」バス停があり、**交通拠点**となっている。



生活拠点

×

交通拠点

=

モビリティハブ
形成

運行概要（案）

運行目的：生活拠点までの移動手段の確保
基幹公共交通との接続確保

運行ルート（案）：まちづくりセンター発⇒住宅⇒まちづくりセンター着

運賃：**無料**

乗車方法：ルート内であればどこでも乗り降りができる「**フリー乗降方式**」

運行期間：令和8年**10月下旬～11月下旬**までの1ヶ月
(**日曜日を除く**)

運行時間：10時～17時（1時間に1便）

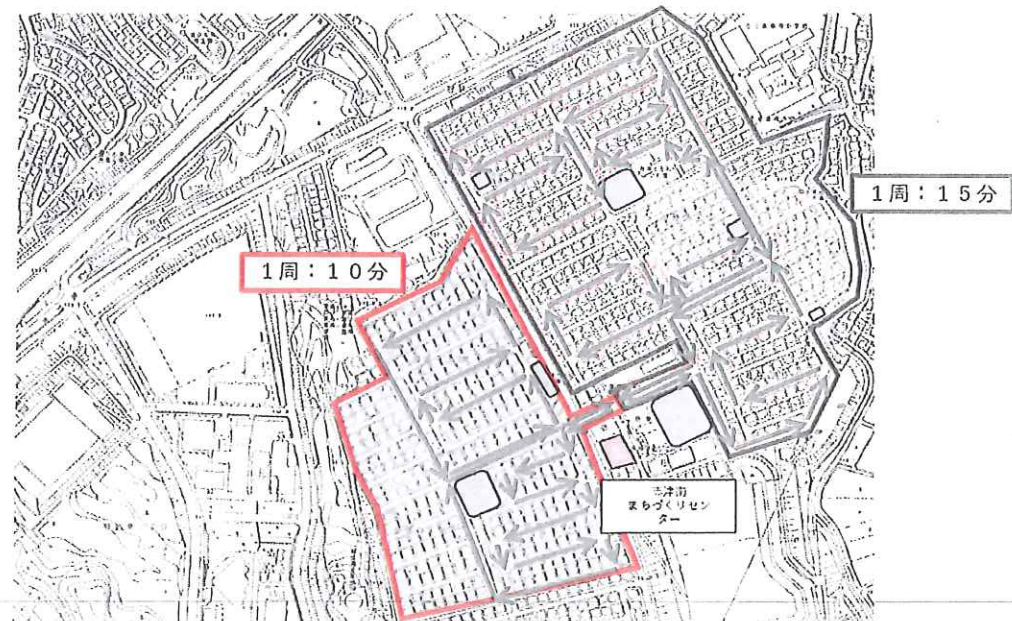
運行車両：電動車【グリーンスローモビリティ】
(小型自動車（7人乗り）)

運転手：地域のボランティア、まちづくりセンター職員、市職員

利用（案）

- ・まちづくりセンターの各自主教室参加及び帰宅時の利用
- ・び文エリア横断バスに乘換えフォレオー里山やびわこ文化公園へ行く時の利用

（参考）ルート案



※
グリーンスローモビリティとは
電動で時速20km未満で公道を
走る4人以上のパブリック
モビリティであり、今回実証実験で
使用する「e-COM4」は7人乗りの
車両であり、ヤリスやアクアと同程
度の大きさ



運行ルート

青山五丁目 ～ 大津市公設市場

区間	距離 (km)	時間(分)
若草中央通りー県立図書館・美術館前	7.1km	約21分
若草中央通りーフォレオ大津ー里山	9.4km	約27分

※時間は表定速度18km/hで計算

■実証運行の方針(案)

2. 近江鉄道バス・帝産バス 2社での共同運行
3. 運行期間：10月下旬～11月下旬(月・祝)(平日・土日共) (31日間)
4. 運行時間：10時～17時
5. 運行頻度：1便/1時間(上り・下りで2便)
6. 運賃：100円/1回
7. び文エリア立地施設でのイベント、草津市グリーンスローモビリティ・シェアサイクルと連携する。

